

生活支援体制整備に関する住民ニーズと対応策の整理

※ニーズは「ワークショップ」「平成28年度調査」「地域ケア個別ケア会議」で挙げたもの。

ニーズ	ワークショップでの案・意見	現状と議論のポイント例	キーワード
生活支援サービスを知らせ、活用を促す必要がある。	町内で相談できる場所があれば良い。	《現状》 地域包括支援センターサブセンター、民生委員、町内会、地区社協など様々な相談先があるが、生活支援サービスについての情報がまとまっていないため、教えてくても教えられなかったり、調べる手間がかかる。 《ポイント》 新たな相談窓口を設置するのか、既存の資源を活用するのか。	相談窓口 窓口支援 周知
	情報をまとめたパンフレットを配布する。	《現状》 インフォーマルサービスをまとめたパンフレットは作成していない。 《ポイント》 できるだけ多くの情報を集める方法について検討が必要。	パンフレット作成 周知
	病院やスーパーなど目に付きやすいところにポスターを設置する。	《現状》 各事業者が個別に実施しているかもしれないが実態は不明。 《ポイント》 各自業者の方針を確認する必要があるのではないか。	周知
	情報発信する。	同上	周知
	民生委員などの身近な人が対面で情報を伝える・周知活動を行う。	《現状》 民生委員や地区社協はすでに多くの事業を担っているうえ、担い手不足が懸念されている。その一方で新しい人材を受け入れには手間がかかるため、単純に「希望者を募ればよい」ということでもない。 《ポイント》 既存の社会資源（民生委員等）へのフォローも同時に考える必要があるのではないか。	周知 訪問活動 資源への支援

ニーズ	ワークショップでの案・意見	現状と議論のポイント例	キーワード
生活支援サービスを知らせ、活用を促す必要がある。	若い世代に興味関心をもってもらう。 ※「小学生のうちから介護について学んでもらいたい」という意見あり。	《現状》 学校で介護を体験する授業があるものの、「(ワークショップのように) 高齢者と交流しながら具体的に考える」という機会は少ないと思われる。 《ポイント》 既存の取組みに参画するのか、新たな取組を立ち上げるのか。	教育
	自身で情報を集める姿勢が必要。	《現状》 地域包括支援センターに寄せられる相談内容から、「介護が必要になってはじめて考え始める」という人は少なくないと思われる。 《ポイント》 65歳以前へのアプローチも想定されるため、関係課・関係機関と連携するのか、高齢福祉課独自で取り組むのか。また、効果的な教育や周知のあり方とは。	自助教育啓発
	サービスをお試し利用できると良い。	《現状》 各事業者が個別に実施している可能性はあるが、実態が不明である。	サービス活用促進
まだ見ぬ生活支援サービスを発見する必要がある。	情報を集めるために「様々な人が集まる企画」を実施する。例えば若者と共同作業をするようなもの。	《現状》 ワークショップそのものが、「様々な人が集まる企画」に該当している。その他、市社協が実施している「三世代交流事業」も該当している。 《ポイント》 既存の取組みに参画するのか、新たな取組を立ち上げるのか。	情報収集 居場所づくり

ニーズ	ワークショップでの案・意見	現状と議論のポイント例	キーワード
<p>高齢者がICTを活用できるようにする必要がある。</p>	<p>パソコンの使い方と、便利さを伝えるような講習会を開催する。 ※「世代間交流の意味も持たせるため、若者が教える側にまわってはどうか」「学校施設を利用してはどうか」との意見あり。</p>	<p>《現状》 高齢者のICT活用状況等が不明である。 《ポイント》 （ICTを活用する高齢者は年々増加していくと考えられるため）これから望まれる対策とはどのようなものか。</p>	<p>ICT活用 居場所づくり</p>
<p>ごみ捨ての大変さを解消する必要がある。</p>	<p>①ごみ捨て場の環境整備に学生ボランティアを活用する。 ②ごみ捨ての補助をしてくれる人がいると良い。 ③戸別回収してくれると良い。</p>	<p>《現状》 住民や町内会等の善意に頼っている状況である。また、要介護状態であれば、介護保険サービスで対応している例もある。 《ポイント》 新たな対応が必要な場合、ボランティアベースの取組にするか、事業ベースの取組にするか。</p>	<p>ボランティア活用 サービス開発 地域づくり</p>
<p>買い物の不便さを解消する必要がある。</p>	<p>①週に1～2回利用できる、乗り合いバスがあれば良い。 ②ICTを活用して自家用車の乗り合いができる仕組みがあれば良い。 ③移動販売車があれば良い。 ④これからはネットスーパーの活用も考えていきたい。 ⑤小さな商店でもあれば随分違うのではないか（交流の場にもなるし）。</p>	<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人の移動支援は、タクシー（介護付き含む）、福祉有償運送などがある。 ● 移動販売については民間業者が一部の地区で実施している。 ● ネットスーパーの活用状況は個人差が大きいと思われる。 <p>《ポイント》 移動支援、訪問販売、移動販売、宅配、というように様々な対応策が考えられるが、当市では「既存の資源が知られていない」という点が課題である（平成28年度調査結果から）。</p>	<p>サービス開発 サービス活用 移動支援 ICT活用 周知 地域づくり</p>

ニーズ	ワークショップでの案・意見	現状と議論のポイント例	キーワード
<p>楽しんで行けるような場所や、人と交流する機会を増やして欲しい。</p>	<p>①趣味の教室を充実させる ②若い世代と交流できる機会があれば良い ③地元の大学の学園祭に参加したい ④小学校の空き教室を借りてコミュニケーションがとれる場にしてはどうか ⑤男性の役割を生み出す試みが必要ではないか。例えば近所の女性が力仕事を頼む等。</p>	<p>《現状》 公民館活動やサークル活動が各地域にある。 《ポイント》 既存の取組で十分なのか、それとも不十分なのか（量と質）。 ※29年度に活動を始めた「そよ風（社会福祉法人白銀会の自主事業）」が盛況のため、「高齢者の居場所や交流」に関する需要は潜在している可能性がある。</p>	<p>余暇活動 居場所づくり 役割づくり 世代間交流</p>
<p>緊急事態への対応が必要。</p>	<p>心拍が弱まったら通報してくれる装置があれば良い。</p>	<p>《現状》 市が実施する緊急通報装置の貸与のほか、民間の警備会社が通報装置のサービスを展開している。 《ポイント》 ワークショップで挙げたアイデアが実現可能かどうか。</p>	<p>サービス開発</p>
<p>地域のつながりを強める必要がある。</p>	<p>①町内会に入るメリットを打ち出す。 ②町内会に若い世代が加入してもらうためのアプローチ。 ③近所の井戸端会議の雰囲気を出す。 ④地域のイベント（祭り等）は地域づくりに重要なものではないか。</p>	<p>《現状》 町内会からは担い手確保の問題に直面しているとの声が挙げられている。町内会に加入しない人を対象にした調査は行われていないため、未加入理由は不明。 《ポイント》 何をもってすれば「地域のつながりが強い」と言うことができるのか。また、地域のつながりとは不変のものか、それとも変化していくのか。</p>	<p>地域づくり</p>

ニーズ	ワークショップでの案・意見	現状と議論のポイント例	キーワード
健康に過ご したい。	健康に関する調査を増やして 欲しい。	《現状》 「健康はちのへ21」のなかで定期的に市民に対する調査を実施している。	自助 啓発